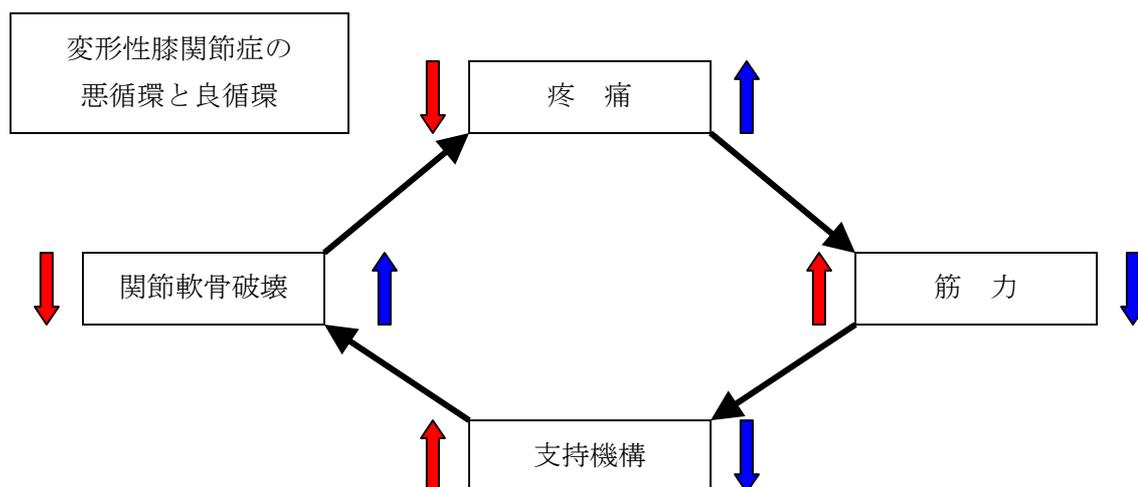


変形性膝関節症の治療

変形性膝関節症の詳細については他項に譲り、この項では変形性膝関節症の治療の考え方について記載します。

変形性膝関節症では、図のような悪循環（青の矢印）を形成します。膝関節に疼痛が起こると、歩行や運動を行わなくなり下肢の筋力が低下します。筋力が低下すると、膝の支持機構が十分ではなくなり、関節軟骨の破壊が進行します。するとますます疼痛が増強してきます。この繰り返しが変形性膝関節症を悪化させてゆきます。治療はこの悪循環をどこかで断ち切り、良循環（赤の矢印）にすることです。つまり、疼痛が軽減すれば、歩行や運動ができるようになり筋力がついてきます。筋力がつけば支持機構がしっかりし、関節軟骨の破壊が軽減します。するとさらに疼痛が軽減してゆきます。これが良循環です。この良循環のスタートはどこからでも構いません。患者さんの状態にあわせて各治療法が処方されます。



疼痛の軽減に対しては、消炎鎮痛剤の内服や塗り薬、シップが処方されます。また、温熱療法や電気刺激療法も行われます。筋力増大に対しては運動療法として大腿四頭筋訓練を中心とした運動処方がなされます。支持機構をしっかりさせるには、各種サポーターの使用が行われます。関節軟骨破壊に対しては、ヒアルロン酸の関節内注射が行われ、重症の場合には、骨切り術や人工関節置換術などの手術療法が行われることがあります。

年齢のせいだとあきらめたり、誤った民間療法に頼ったりすることなく、整形外科での正しい治療法にて、良循環を作り上げて変形性膝関節症を治療しましょう。